

大地震が発生したらまず自分の身を守る

2018年8月25日発行

揺れが収まったら真っ先に火の始末で火災防止

柳谷戸支隊 情報・広報班



9月1日は防災の日！(防災週間8/30～9/5)

非常用持ち出し袋や備蓄ユニットの点検をしましょう！

『天災は忘れた頃にやってくる』とは

大阪北部地震(2018/6/18)では、屋内の家具転倒・ブロック塀倒壊が激しく、断水で水の大切さを感じ、ガスの供給停止で煮炊きができずカセットコンロのガスボンベを買う姿を見ました。専門家は警鐘を鳴らしています「この地震(震度6弱)と同程度の地震は平均して毎年1回は起きているが、今回の震源地周辺は地盤が軟弱で人口密集地だった。住環境などの条件を加味して対応しなければ、この規模の地震でも大災害を招きかねない。」<http://www.jprime.jp/articles/-/12679>。震度6弱クラスの地震では建物被害は倒壊までに至ることは少なく、殆どの家庭で屋内被害が発生します <http://www.jma.go.jp>(気象庁震度階級の解説)。地震による負傷者全体の30～50%が家具類の転倒・落下・移動が原因である東京防災p094のも、このクラスの地震が多いためなのでしょう。

防災の日(9月1日)は関東大震災(1923/9/1)が発生した日です。その頃から「天災は忘れた頃にやってくる」という句が広まり出したそうです。「経験した天災から減災方法を学んで次の天災に備えて忘れないうちに訓練を繰り返すこと」が大切なのですね。減災をすすめる7つの備えを内閣府が啓蒙しています <http://www.bousai.go.jp/> から検索(減災のてびき)で「今すぐできる7つの備え」。

① 自助、共助	② 地域の危険を知る	③ 地震に強い家	④ 家具の固定
⑤ 日ごろからの備え	⑥ 家族で防災会議	⑦ 地域とのつながり	

訓練やチラシで何度も聞いた内容ばかりです。大阪北部地震の被災状況を知ったことで、家具の転倒防止・水の保存・カセットコンロ(ガスボンベ)常備の大切さを改めて教えられました。

『停電で、給水停止の状況で、暑さをしのぐための備え』のテスト

東京都は7月13日から24日までほとんど上天氣の猛暑日(最高気温35℃以上)に近いという天災に見舞われました。全国では15日～21日の1週間で熱中症による死者65、搬送者数20,200でした。猛暑日中に停電と給水停止が発生したらどうなっていたでしょうか。

1	下の①はなぜか。②③④それぞれにあてはまる物はなにか。考えてみてください。	
	①濡れタオルなどで冷やすと効果的に体温を下げるができる部位は首の両わき・首のうしろ・脇の下・両脚の付け根・尾てい骨の上。	東京防災 p194-5 くらし p64-5
	②停電でも風を起こすことができる物を準備しておく。	
	③停電で給水停止でも体を冷やすことができる物を準備しておく。	
	④給水停止でも脱水症状を防ぐことができる物を準備しておく。	東京防災 p197

解答例；①太い血管が肌の近くにあり、ここを冷やすと体温を効果的に下げることができる。

②例えば扇子やうちわなど。③例えば冷却スプレーや熱をさますシートなど。

④例えば保存水1ℓに塩4gと砂糖40g、またはスポーツ飲料。

右列にある東京防災や東京くらし防災のページを読んで参考にしてください。

まだまだ蒸し暑い日が続きます、熱中症に気をつけましょう。

以上